

**令和5年度
第2回いわき市保健医療審議会
自殺対策協議部会**

議事録

いわき市保健所 地域保健課

令和5年度 第2回 いわき市保健医療審議会 自殺対策協議部会

1 日 時 令和5年12月1日（金） 午前10時00分～午前11時30分

2 場 所 いわき市総合保健福祉センター 社会復帰会議室

3 出席者

委 員	矢本 聡	委 員	千葉 光平
委 員	勝島 聡一郎	委 員	阿部 智樹
委 員	草野 美保	委 員	吉野 敦広
委 員	緑川 しのぶ	委 員	野木 和洋
委 員	篠原 清美	委 員	志賀 光博
委 員	小林 裕明		

4 事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	小川 俊幸
保健所地域保健課	参事兼課長	小野 勝己
	指導保健技師兼精神保健係長	櫛田 淳子
	指導保健技師	篠山 絢子

5 議 事

(1) 協議事項

第2次いわき市自殺対策計画の素案について

6 会議の概要

(1) 協議事項

第2次いわき市自殺対策計画の素案について

発 言 者	内 容
委員A	生活困窮者の対策のひとつとして、健康保険の無保険者の状況について把握しているか。
事務局	我が国は国民皆保険制度であるため、無保険者の実態把握は難しいが、本市の担当部署において情報を把握している可能性があることから、今後担当部署に確認をしたい。

委員A	素案4ページの数値目標 令和10年自殺者数41人以下について、その人数までは自殺を許容するような認識になってしまうのではないか。自殺者ゼロを目指すとしてもよいのではないか。
事務局	最終的に目指すべきものは、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」ではあるが、当面の目標として国や県を参考に、数値目標を設定している。数値目標の設定については、計画に説明を追加したい。
委員B	素案17ページ「自殺の危機経路」は、医療機関での診察場面でも同様の背景が確認され、地域におけるゲートキーパーの育成だけでなく、医療従事者もこのような取組が必要であると考えます。
委員C	素案42ページ「多様な手段を活用した情報発信の推進」の関連事業「児童生徒へのタブレット端末を活用した相談窓口」の周知は、有効な取組みであるため、是非掲載し推進してほしい。
委員D	子どもたちはすでにインターネットを使うことが多く、学校においてネットワークやSNSの正しい使い方の講習を行うことで、相談先などを紹介できると考える。
委員D	素案50ページ「SOSの出し方に関する教育を実施する中学校・高校の割合」が32%とあるが、いじめ防止等含め人権教育や道徳の時間で命をまもることにつながる授業を実施しており、「SOSの出し方教室」という名称に限定しなければ実質率は高いと思われる。
事務局	各学校での取組み状況を調査した際、「SOSの出し方教室」に限らず、SOSの出し方について、各学校の采配により実施しているか確認し回答をしていただいた。次年度以降も規準を明確にして、実施状況を確認したい。
委員C	素案52ページ「高齢者の生きがいを推進」とあるが、具体的な取組を知りたい。例えば、要介護者が車椅子で、いわきFCの試合を観戦するなど生きがいを推進するにつなげるのではないかと。
委員A	市社会福祉協議会においても、市から業務委託を受け「つどいの場」を実施しているが、年々参加者が減少しているのが課題。

	<p>近年、老人クラブの解散が顕著であり、今後の活動のあり方についても考えるべきといえる。</p> <p>独居高齢者は、民生委員が訪問し、状況に応じて地域包括支援センターへつなぐ等の対応を実施している。</p> <p>各地域包括支援センターでは、基本チェックリスト等を活用し、対象世帯へ訪問をしている。</p>
委員F	<p>自殺リスクを抱える対象者への対策としてひきこもり対策があるが、必要な方へ情報が届かない、アプローチができない等の課題がある。支援機関が把握できていない潜在的对象者をどのように把握するか、ひきこもりにならないための予防的支援、医療につながった後に未受診となった方をフォローする体制整備等が必要。</p>
事務局	<p>ひきこもり者への対応は、複雑長期化することも多く、ひきこもりの家庭が孤立することがないように、専門相談や家族教室、アウトリーチ事業等を実施しているが、関係機関と連携を図り、ひきこもりの支援を推進してまいりたい。</p>
議長	<p>ひきこもりについては、保健所だけで対応できる問題ではなく、相談や医療に繋がらない人も含め予防の観点も含め、様々な関係機関が入らないと議論が進まず、いわき市全体で体制整備を図っていく必要があるかなど検討が必要だと考える。</p>
委員G	<p>高校生の自殺は未遂も含め、令和に入り増加傾向であることから、高校の現場でも自殺者ゼロを目指し取り組んでいる。県の高校教育課において各地区の校長会で指導助言しているが、知識は持てるが、実際の現場において、何をどのようにしてよいか分からないという意見がある。第1次計画での取り組みの効果や課題が見えるよう示してもらえると第2次計画で具体的に進めていけると思う。自殺の相談窓口は、小中学校は市教育委員会で対応するが、高校になるといわき市民ではあるが、市の相談窓口がなく、県が対応しており、そのようなことが課題だと感じている。</p>
議長	<p>皆さんからたくさん意見が出され、各所属で仕事をしている中で自殺の問題が身近な課題となっていると感じた。今日の意見を参考に素案を検討してもらいたい。</p>